

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の専門職学科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジツン キョウガクケン 学校法人 菊武学園									
フリガナ大学の名称	ナゴヤサングョウダク 名古屋産業大学 (Nagoya Sangyo University)									
大学本部の位置	愛知県尾張旭市新居町山の田3255番地5									
大学の目的	誠実にして創造性に富み、専門的能力を身につけた、産業社会で活躍できる人材を育成することを目的とする。									
新設学部等の目的	デジタルデータの知識技能を駆使し、企業経営や社会の変化に対応した事業の実践を通じて、価値創造に貢献する専門職人材を養成するため、①社会人としての一般的、汎用的能力やキャリア形成力を習得し、社会の変化に柔軟に対応できるキャリア・オーナーシップを身に付けた人材、②技術革新、情報技術の進展に対応し、デジタルデータの知識・技能を備え高度な実践力を身に付けた人材、③地域社会や企業経営の中で、事業に関する高度な専門知識と豊かな創造力を有し、事業の価値創造に貢献できる人材を養成することを教育目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	現代ビジネス学部 [Faculty of Current Business] 経営専門職学科 [Professional Department of Business Administration] 計	年	人	年次人	人	学士 (経営専門職) Bachelor of Business Administration	令和3年4月 第1年次	愛知県尾張旭市新居町山の田3255番地5		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		現代ビジネス学部 現代ビジネス学科〔定員減〕 (△40) (令和3年4月)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	現代ビジネス学部 経営専門職学科	講義	演習	実験・実習	計	124 単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設分	現代ビジネス学部 経営専門職学科		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
		計		6 (6)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	27 (27)
	既設分	現代ビジネス学部 現代ビジネス学科		11 (11)	5 (3)	5 (7)	1 (1)	22 (22)	0 (0)	49 (49)
		計		11 (11)	5 (3)	5 (7)	1 (1)	22 (22)	0 (0)	— (—)
合計		17 (17)	10 (8)	5 (7)	1 (1)	33 (33)	0 (0)	— (—)		
教員以外の職員の概要	職種			専任	兼任		計			
	事務職員			22人 (22)	6人 (6)		28人 (28)			
	技術職員			0 (0)	0 (0)		0 (0)			
	図書館専門職員			1 (1)	0 (0)		1 (1)			
	その他の職員			1 (1)	0 (0)		1 (1)			
計			24 (24)	6 (6)		30 (30)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	共用する他の学校 名古屋経営短期大学 (必要面積:5,600㎡) その他(共用) 借用面積347㎡、 借用期間:20年			
	校 舎 敷 地	236 ㎡	15,961 ㎡	0 ㎡	16,197 ㎡				
	運 動 場 用 地	0 ㎡	31,447 ㎡	0 ㎡	31,447 ㎡				
	小 計	236 ㎡	47,408 ㎡	0 ㎡	47,644 ㎡				
	そ の 他	0 ㎡	27,918 ㎡	0 ㎡	27,918 ㎡				
合 計	236 ㎡	75,326 ㎡	0 ㎡	75,562 ㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	名古屋経営短期大学 と共用 (必要面積:3,850㎡)			
		2,649 ㎡ (2,649 ㎡)	17,768 ㎡ (17,768 ㎡)	2,814 ㎡ (2,814 ㎡)	23,231 ㎡ (23,231 ㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学・短大全体			
	18 室	24 室	19 室	7 室 (補助職員 0人)	2 室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		11 室			
		現代ビジネス学部 経営専門職学科							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	図書は大学及び短期 大学全体での共用分 を含む。 (学科単位での特定不 能なため、大学・短 期大学全体の数)	
	現代ビジネス学部 経営専門職学科	75,984 [9,662] (73,316 [9,662])	112 [1] (92 [1])	50 [0] (50 [0])	1,967 (1,967)	0 (0)	0 (0)		
	計	75,984 [9,662] (73,316 [9,662])	112 [1] (92 [1])	50 [0] (50 [0])	1,967 (1,967)	0 (0)	0 (0)		
図 書 館		面 積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学・短大全体		
		767 ㎡		124 席	79,528 冊				
体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		3,967 ㎡		テニスコート3面					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学・短大全体 図書費には電子 ジャーナル・デー タベースの整備費(運用 コストを含む)を含 む。
	経費の見積り								
	教員1人当り研究費等		300 千円	300 千円	300 千円	300 千円	— 千円	— 千円	
	共同研究費等		200 千円	200 千円	200 千円	200 千円	— 千円	— 千円	
	図書購入費	5,964 千円	5,466 千円	5,428 千円	5,428 千円	5,428 千円	— 千円	— 千円	
設備購入費	14,000 千円	1,293 千円	1,293 千円	1,293 千円	1,293 千円	— 千円	— 千円		
学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,300千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等						
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	名古屋産業大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
	環境マネジメント研究科 博士前期課程	年	人	年次 人	人	修士(環境マネジ メント)	0.75	平成16年度	愛知県尾張旭市新 居町山の田3255番 地5
	博士後期課程	3	3	—	9	博士(環境マネジ メント)	0.11	平成19年度	
	現代ビジネス学部 現代ビジネス学科	4	190	3年次 5	770	学士(現代ビジネ ス)	0.94	平成12年度	
大 学 の 名 称	名古屋経営短期大学								
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
子ども学科	年	人	年次 人	人	短期大学士 (子ども学)	0.62	平成19年度	愛知県尾張旭市新 居町山の田3255番 地5	
未来キャリア学科	2	100	—	200	短期大学士 (未来キャリア)	0.92	平成19年度		
健康福祉学科	2	60	—	120	短期大学士 (健康福祉学)	0.56	平成20年度		

既設大学等の状況	専門学校の名 称	菊武ビジネス専門学校							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地
	情報ビジネス科	年	人	年次 人	人	-	0.60	平成15年度	愛知県名古屋市東 区相生60番地
	キャリアウーマン養成科	1	40	-	40	-	0.00	平成27年度	
	専門学校の名 称	専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地
	フラワービジネス科	年	人	年次 人	人	専門士（商業実務 専門課程）	1.11	平成 7年度	愛知県名古屋市北 区平安二丁目15番 43号
	ブライダルビジネス科	2	40	-	80	専門士（商業実務 専門課程）	1.21	平成10年度	
	フラワーマスター科	2	80	-	160	-	0.00	平成10年度	
	ブライダルマスター科	1	20	-	20	-	0.00	平成21年度	
トータルビューティ科	1	20	-	20	-	0.00	平成23年度		
トータルビューティ科	2	40	-	80	専門士（文化・ 教養専門課程）	0.42	平成23年度		
附属施設の概要	該当なし								

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営専門職学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
一般・基礎科目	教養教育科目	地理学	1前	2		○									兼1	
		経済学	1前	2		○			1							
		心理学	1後	2		○									兼1	
		倫理学	1後	2		○									兼1	
		文化人類学	1前	2		○									兼1	
		社会学	1前	2		○									兼1	
		政治学	1後	2		○									兼1	
		情報入門	1前	2		○									兼1	
		物理学	1前	2		○									兼1	
		数学入門Ⅰ	1前	2		○									兼1	
		数学入門Ⅱ	1後	2		○									兼1	
	化学	1後	2		○									兼1		
	コミュニケーション	プレゼンテーション技法	1前	2			○								兼1	
		イングリッシュコミュニケーションⅠ	1前	2			○								兼1	
		イングリッシュコミュニケーションⅡ	1後	2			○								兼1	
		オーラルイングリッシュⅠ	1前	1			○								兼1	
		オーラルイングリッシュⅡ	1後	1			○								兼1	
		中国語会話Ⅰ	1前	1			○								兼1	
		中国語会話Ⅱ	1後	1			○								兼1	
		中国語会話Ⅲ	2前	1			○								兼1	
	キャリア教育科目	海外語学研修(英語)	1前	2					○						兼1	
		海外語学研修(中国語)	1後	2					○						兼1	
		キャリアデザインⅠ	1前	2			○			1					※演習	
		キャリアデザインⅡ	2前	2			○			1					※演習	
		キャリアデザインⅢ	3後	2			○			1					※演習	
	ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ	1前	2				○		5	1					
		基礎ゼミナールⅡ	1後	2				○		5	1					
		基礎ゼミナールⅢ	2前	2				○		5	1					
		基礎ゼミナールⅣ	2後	2				○		5	1					
	小計(30科目)		-	14	40	0			-	5	2	0	0	0	兼12	
	職業専門科目	専門基礎教育科目	経営学総論	1前	2			○			1					
			簿記	1前	2			○				1				
			統計学基礎	1前	2			○				1				
マーケティング			1前	2			○								兼1	
会社法			1前	2			○								兼1	
経営管理論			1後	2			○			1						
ファイナンス			1後	2			○			1						
地域経済論			1後	2			○			1						
ビジネスエコノミクス			1後	2			○			1						
専門教育科目			デジタルデータ系	データベース	1前	2			○							
		ビジネス情報処理実習		1後	2					○		1				
		統計処理とデータマイニングⅠ(定量)		1後	2			○				1				
		統計処理とデータマイニングⅡ(定性)		1後	2			○				1				
		データベース実習		2前	2					○		1				
		デジタルデータ活用		2前	2				○			1				兼1 オムニバス ※演習
		データサイエンス実習		2後	2					○		1				
		事業実践系	ビッグデータの活用	2後	2			○								兼1
			人工知能とIoT	2後	2			○								兼1
			統計調査実習	2後	2					○		1				
			人工知能とIoT活用のイノベーション	4前	2			○								兼1
			事業概論	1前	2			○				1				※演習
			事業データ概論	1後	2			○				1				
			共創・フューチャーセンター	1後	2			○				1				※演習
企業調査実習		2前	2					○	3	3						
事業計画と資金調達		2前	2			○			1							
事業探算分析		2前	2	2			○			1						
プロジェクト実習		2後	2					○	3	3						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
職業専門科目	専門教育科目	事業実践系	事業の調査と分析	2後	2			○			1					
			事業共創	2後	2			○			1					
			商品開発実践	2後		2			○							兼1
			事業計画実践	2後		2			○							兼1
			事業価値算定	2後		2			○		1					
			事業改善実習	3後	2					○		2				
			社会共創実習	3後	2					○	1	1				
			ソーシャルイノベーション	4前		2			○							兼1
			サービスイノベーション	4後		2			○		1					※演習
	ゼミナール	専門ゼミナールⅠ	3前	2				○		3	1					
		専門ゼミナールⅡ	3後	2				○		3	1					
		専門ゼミナールⅢ	4前	2				○		3	1					
		専門ゼミナールⅣ	4後	2				○		3	1					
	臨地実務実	インターンシップ	2前	2					臨		2					
		長期インターンシップⅠ	3前	6					臨	3	2					
		長期インターンシップⅡ	3前	6					臨	3	2					
長期インターンシップⅢ		3前	6					臨	3	2						
	小計(44科目)	-	70	30	0			-	5	5	0	0	0	兼8		
展開科目	地域文化とまちづくり	1前	2				○			1					※演習	
	ダイバーシティと女性活躍推進	1前		2			○							兼1		
	観光地域開発	1後	2				○		1							
	モラルと共感の心理学	1後		2			○		1							
	地域スポーツコミッション	1後		2			○							兼1		
	地域連携論	2前	2				○			1				兼1 オムニバス		
	地域公共政策	2前		2			○							兼1		
	ワークライフバランスとワーケーション	2前		2			○							兼1		
	コミュニティ心理学	2後	2				○		1							
	共生社会福祉	2後		2			○							兼1		
	ヘルスケアマネジメント	2後		2			○							兼1		
	環境生態学	3後		2			○							兼1		
	人材育成と組織開発	3後		2			○							兼1		
	小計(13科目)	-	8	18	0			-	2	2	0	0	0	兼7		
総合科目	事業価値創造実習Ⅰ	4前	2					○	1	1						
	事業価値創造実習Ⅱ	4後	2					○	1	1						
	小計(2科目)	-	4	0	0			-	1	1	0	0	0			
合計(89科目)		-	96	88	0			-	6	5	0	0	0	兼27		
学位又は称号		学士 (経営専門職)		学位又は学科の分野			経済学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
【卒業要件】 次により、必修科目96単位、選択科目28単位以上を修得すること。 一般・基礎科目20単位以上 教養教育科目から4単位以上 コミュニケーション・キャリア教育科目・ゼミナールから16単位以上 職業専門科目80単位以上 専門基礎教育科目から12単位以上 専門教育科目から48単位以上 ただし、以下の3科目の中から2単位以上を含むものとする 「人工知能とIoTの活用のイノベーション」、「ソーシャルイノベーション」、 「サービスイノベーション」 臨地実務実習から20単位 展開科目20単位以上 総合科目4単位 履修科目の登録の上限:22単位(半期)(休暇中に実施されるインターンシップ、海外語学研修は除く)							1学年の学期区分		2学期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

授 業 科 目 の 概 要

(現代ビジネス学部経営専門職学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
一般・基礎科目	教養教育科目	地理学	日本の風土を自然、植生、基層文化、信仰、伝統、自然景観、文化的・歴史的景観、里山・里地、湿地というような多元的観点から見直す。また、自分が生活している地域の風土資源を見出し、それを活用するにはどのようにしたら良いかについて自己の考えを的確に表現できるようにする。また、風土とは何かを理解し、自分が生活している地域の風土資源を見出し、それを活用するにはどのようにしたら良いかについて自己の考えを的確に表現できるようにする。地理学が社会において果たす役割について理解を深めるとともに、各産業の立地、機能、動向について学んでいく。	
		経済学	ミクロ経済学の入門としてその基礎的な概念を講述するとともに、実際の経済問題について経済学の視点に立った見方を解説する。家計や企業などの経済主体が各々の目的に沿って行動している現代社会において、市場(価格)メカニズムはどのように機能し、どのような意味で効率的な資源配分を実現するのかを理解する。家計と企業の相互作用としての市場の仕組みを講義し、市場の仕組みの成果を調べる。市場が効率的な資源配分に失敗する市場の失敗を講義する。	
		心理学	さまざまな心理学の研究領域における基本的概念、理論や研究から心理学全般についての基礎知識を学ぶ。目に見えない心の働きやその仕組みを、心理学ではどのように捉えているのか。日常における人々や自分自身の行動と照らし合わせながら、心理学の基本的概念、理論を学ぶ。特に、感覚と知覚、学習、記憶、欲求・感情、発達、対人心理、社会的態度、集団過程、パーソナリティと知能、臨床心理学の諸理論、臨床心理のアセスメント、心の支援、ストレスとストレスマネジメントについて学ぶ。	
		倫理学	現代社会と自己への道、思索の源流、西洋の近代思想、日本の思想、および現代の倫理的課題について説明し、未来の新しい時代に即した人間の生き方について学ぶ。特に、宗教と祈り、人間の尊厳・近代科学の考え方、民主主義の考え方・近代の理性的な人間像、人間と働くこと・幸福と創造的知性・真実の自己を求めて、生命の尊厳とヒューマンイズムの思想・新しい知性と現代への批判、日本の風土と文化・古代日本人の心・日本人と仏教・儒教とさまざまな思想、日本の近代化と新しい思想について学び、現代の倫理的課題、現代の倫理的課題に関する調査、現代の倫理的課題に関する整理・発表・検討を行う。	
		文化人類学	文化は、人間のものの見方や、感じ方、日常の行動、人間関係等に大きな影響を及ぼしている。文化の多様性を理解することは、人類の文化や普遍性や共通性の認識に役立つ。この授業では、文化人類学の基礎的な理論を学びながら、世界の民族の生活や社会、価値観の多様性と共通性を知り、文化とは何かを理解し、文化人類学の基礎的な理論を理解することによって視野を広げる。特に、マリノフスキーとフィールドワーク、採集狩猟民の社会・文化、牧畜民の社会・文化、農耕民の社会・文化、人の一生、信仰について学習する。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代ビジネス学部経営専門職学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般・基礎科目	社会学	社会学の基礎理論を学びつつ、前近代から現代までの社会の成り立ちを理解し、非市場社会の交換・互酬・再配分という概念から始まり、その後の市場の発生や分業が高度に発達した資本主義社会の成立、社会主義の発生、そして現在の社会問題までをできるだけ実践的に理解し、社会の仕組みを理解する。特に、市場の発生、コミュニケーション、価格の決定メカニズム、近代資本主義、分業、近代における労働、社会規範と秩序、行為者と準拠集団、逸脱行動、社会的アノミーについて学ぶ	
	政治学	政治とは何か、支配とは何かということについて歴史的な視点から理解する。どのように国家が誕生し、政治システムが生まれたのか。なぜ歴史上多くの国の王朝は滅んだのか。伝統的支配から合法的支配へと支配体制が変わり、臣民から国民へと変化する過程の中で、人間が政治に参加するとはどういう意味を持ってきたのか。国民、国家、権力とは何なのかについて、中国王朝史を眺めながら学び、普段意識していない政治というものを少しでも身近に捉えられるようにする。権力とは何か、統治する、支配されるとはということなのかを歴史的に学ぶ。	
	情報入門	情報入門では、経営専門職学科で中心的に学修するデータの収集・分析・加工や、その知識・技能・技術を活用して事業・業務の支援・推進・加工のための基礎となる情報に関する知識を広く習得する。特に、情報社会を取り巻く環境や、社会情勢や知的財産や情報保護・セキュリティなどの情報に関するリテラシーを身につけるとともに、情報の検索やデータ管理、プログラミング言語の基礎、アルゴリズムの基礎的な概念について理解する。	
	物理学	日常の中で実用として、また技術の開発や応用に物理学がいかに役立っているかを身近な“なぜ”を物理の目で解明する。日常見られる諸現象をとり上げ、物理学を通して解釈する。住居、生活、遊び、機械、自然などに分け、状況別に講義を行う。その際、ポイントとなる現象を表すための詳細な過程に注目する。例えば、運動方程式を $ma=F$ として扱うのと、2階の微分方程式として扱うのと、扱える現象の範囲がどのように広がるかについて学修する。	
	数学入門Ⅰ	数学入門Ⅰでは、経営専門職学科で学修する事項の基礎となる数学の理解を深める。具体的には、指数関数および三角関数を中心に理解した上で、解析学の基礎となる微分法、積分法の考え方、計算方法、応用を学習する。主として1変数関数の微積分について考えるが、2変数関数の微分法に関する基礎知識にも触れる。微分積分学の基礎的な考え方を講義すると共に、応用力および計算力を養う。このことにより、事業・業務の支援・推進・改善に向けて今後データの収集・分析・加工に関連した学習の基礎となる解析について理解する。	
	数学入門Ⅱ	数学入門Ⅱでは、経営専門職学科で学修する事項の基礎となる数学の理解を深める。具体的には、近代科学における数量的取り扱いの最も基本的な概念であり線形性を数学的に扱う手法を与える線形代数学を基礎から学習する。座標幾何学(平面、空間)による幾何学的理解、連立一次方程式の解法への習熟、行列式の概念の理解を重視する。このことにより、事業・業務の支援・推進・改善に向けて今後データの収集・分析・加工に関連した学習の基礎となる線形代数学について理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代ビジネス学部経営専門職学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般・基礎科目	教養教育科目 化学	物質の本質を理解するために、原子・分子のレベルでその仕組みと挙動を明らかにすることが学問としての化学である。本講義においては、化学の基礎知識を習得することによって、「化学」を通して環境にかかわる事象を理解できるようにする。化学反応による物質やエネルギーの変化などを説明でき、環境問題の基礎反応を理解することによって対応策を提案できる力をつける。また、物質の構造や性質について、原子の電子構造やエネルギーと関連づけてとらえることができるようになることを講義の目標とする。	
	プレゼンテーション技法	自分が他人に何かを伝えるにはどうすればいいか、その一つの方法をPowerPointを使用して学ぶ。PowerPointの使用法の使い方を習得するとともに、プレゼンテーション資料のためのスライドの作成方法を習得のみでなく、発表するという行為に関する作業全般を実際の例を取り入れて学んでいく。具体的には、自分の意見をプレゼンテーションソフトを使用して効果的に表現し、皆の前で発表できるようになるまでを学習する。	
	イングリッシュコミュニケーション I	高校までに学習した英語の知識を基礎とし、受験英語とは異なる大学での英語の学びを提示する。実用的な英語の運用能力育成を目標とし、以下のような方法を用いて学習する。①英文講読・翻訳などを通じて日本語と英語の世界認識の仕方の違いを理解する。②英語音声学を通じて英語音の調音方法を学び、正しい発音を身に付ける。③リスニング教材を使用し、聴解力を向上させる。④ペアワークなどを通じて英語によるコミュニケーション力を向上させる。⑤コミュニケーションの手段としての英語運用技術の習得のみに限定せず、様々な教材を通じて英語文化圏についての理解を深める。	
	イングリッシュコミュニケーション II	イングリッシュ・コミュニケーションIで培った大学での英語の学びの姿勢をふまえ、より発展的な英語力・英語文化の理解を進める。具体的には以下のような目標を掲げる。①文学作品や時事英語など、様々な分野の英語を理解できる読解力を高める。②スピーキングを通じて英語の音声を正しく発音し、英語らしいイントネーションで英語を話す技術を向上させる。③リスニングを通じて、英語の速度についていける聴解力を更に向上させる。④ペアワークなどを通じて英語でコミュニケーションをとり、自分の考えを英語で伝達し、相手の意図を英語で理解する能力を更に高める。⑤英語文化圏における社会通念や習慣など、言語の背後にある文化についても理解を深める。	
	オーラルイングリッシュ I	手軽に海外に行けるようになった現在、英語を話すことはますます重要なスキルとなっている。本講義ではネイティブ・スピーカーが講師を務め、英語をコミュニケーションのツールとして考え、英語の聴解力・発言力の向上を図る。本講義では毎週、その週に起こった出来事を英語でスピーチさせ、英語で情報を伝達する能力を育成するほか、教科書に従ったケーススタディなどを通じて、英語による会話力(情報伝達力)と聴解力を育成する。	
	オーラルイングリッシュ II	手軽に海外に行けるようになった現在、英語を話すことはますます重要なスキルとなっている。本講義ではネイティブ・スピーカーが講師を務め、英語をコミュニケーションのツールとして考え、英語の聴解力・発言力の向上を図る。本講義ではオーラルイングリッシュIで身に付けた英語運用能力をさらに向上させることを目標とし、英文で書かれた地図、レストランのメニューやパンフレットなど、日常生活の場で実際に用いられている資料を教材として利用し、ペアワークなどの活動を通して、実践的な英会話を学習する。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代ビジネス学部経営専門職学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
一般・基礎科目	コミュニケーション	中国語会話Ⅰ	履修生が中国語入門レベルの学生であることを想定し、中国語のピンイン・声調などの音声指導をいっつつ、テキストや会話練習を通して中国語の入門・初級レベルの文法事項と語彙を学習する。具体的には、授業開始十分間は、発音練習、暗誦及びヒヤリングを行う。その後、文法の解釈、発音のチェック及び練習問題などを通じて授業を行う。本授業では、単母音と声調の学習、日常的な挨拶言葉と中国人の礼儀、複合母音の学習、子音の学習、子音の学習について扱う。	
		中国語会話Ⅱ	中国語会話Ⅰで習得した知識を元に、中国語のピンイン・声調などの音声指導をいっつつ、テキストや会話練習を通して更に多くの文法事項と語彙を学ぶ。本授業では、基礎単語約500語による発音(ピンイン表記)及び単語の意味、日常挨拶語約50～80による語句・単文の中国語訳、平易な中国語を聞き、話すことができる程度の基礎的な中国語運用能力を育成し、海外語学研修で活用できる能力を育む。この講義では、肯定文、疑問文、現在形、過去形について扱う。	
		中国語会話Ⅲ	中国語会話Ⅱ/Ⅲで学習した知識を元に、テキストや会話練習を通して更に高度な中国語表現と文法を学習し、平易な中国語を聞き、話すことができる程度の学力を育成する。発音(ピンイン表記)及び単語の意味、常用語500～1,000による単文の日本語訳・中国語訳ができる程度の基礎的な中国語運用能力を育成し、海外語学研修で活用できる能力を育む。この講義では、比較形、現在進行形、過去完了形について扱う。	
		中国語会話Ⅳ	中国語会話Ⅱ/Ⅲ/Ⅳで学習した知識を元に、テキストや会話練習を通して更に高度な中国語表現と文法を学習し、基本的な文章を読み、書くことができる、簡単な日常会話ができる程度の学力を育成する。発音(ピンイン表記)及び単語の意味、常用語1,000～2,000による複文の日本語訳・中国語訳ができる程度の中国語運用能力を育成し、海外語学研修で活用できる能力を育む。この講義では、受身形、能動形、比較形、使役形について扱う。	
キャリア教育科目		海外語学研修(英語)	英語の運用能力の向上を図り、英語圏(ハワイ)で短期研修を積むことでグローバル感覚を養う。英語圏での滞在を通じて、現地の文化・生活習慣を理解する。英語学習の必要性を実感し、帰国後英語学習に勤しむ。本授業では、現地研修のほかに、事前指導、事後指導も行う。事前指導では渡航のための準備として、現地の基本情報(文化・歴史・社会事情など)、渡航手続き、渡航にあたっての注意事項などの指導を行う。現地研修では、飛行機での移動日を除き、現地の語学学校の学習プログラムに従って英語・ハワイの文化について学習する。教室内での学習のほか、課外研修や観光、自由行動なども含む。現地ではホームステイし、ハワイの日常生活体験も行う。帰国後は報告会を行う。	
		海外語学研修(中国語)	本講義は、一人で台湾や中国に旅行や出張に行くために、必要な情報の収集方法や基本的な会話能力を学ぶ。中国語で挨拶や簡単な自己紹介、数字の教え方、道尋ねに必要な会話を習得し、現地の人と簡単なコミュニケーションを取ること、また、一人で買い物や食事に行ける力を育む。事前研修では渡航のための準備として、現地の基本情報(文化・歴史・社会事情など)、渡航手続き、渡航にあたっての注意事項などの指導を行う。現地研修では、飛行機での移動日を含め、14日間の学習プログラムに従って中国語・台湾の歴史文化について学習する。教室内での学習のほか、課外研修や観光、自由行動なども含む。現地では大学外の学生寮に入居し、台湾の大学生の日常生活体験も行う。事後研修では、現地研修の成果をレポートにまとめる。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代ビジネス学部経営専門職学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
キャリア教育科目	キャリアデザインⅠ	本講義では、大学に入り、社会で働く前に、自分自身の今までの経験を棚卸しし、自己理解を深める。その上で、今後の学生生活における学習目標を明確に定める。さらに、ラーニングポートフォリオやICEルーブリックを理解することにより、経験や体験を内省し、自らの学習計画・行動計画を立案するとともに、行動や学習の振り返りを習慣化できるようにする。	講義 22時間 演習 8時間
	キャリアデザインⅡ	2年次前期に配置し、大学に入り1年が経過した状況の中で、改めて、専門的な技能・技術強化するために必要な事柄を整理する。その上で、今後の講義や、インターンシップなどにおける強化項目、及び現時点の課題を見える化し、この後の学生生活における学修機会を自ら作り出せるようにすることを目標とする。そのために学修ポートフォリオを作成するとともに、相互添削などを通して、自己理解と目標設定の明確化を実現する。また、臨地実務実習「インターンシップ」の事前学習としても位置付けられる。	講義 18時間 演習 12時間
	キャリアデザインⅢ	3年次後期に配置し、大学における講義形式の学修・実習による技術・技能の修得と、臨地実務実習による実践的な体験を通して身につけた知識・経験を改めて棚卸しし、自分自身の現状理解を深める。具体的には、臨地実務実習や今までの学術的な学習を踏まえ、現在の学習経験や実習の経験を棚卸し、社会に対してPRできる「学修ポートフォリオ」を作成する。その上で、社会に出た際に経営専門職人材として、特定の技能・技術を生かすキャリアプランについて構築することができるようになる。	講義 16時間 演習 14時間
ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ	少人数でのゼミナール指導の中で、大学での学修に必要なアカデミックスキルである、高等学校までとは異なる大学での勉強にスムーズに移行するために、聴く・読む・調べる・整理する・まとめる・表現する・伝える・考える力を少人数のゼミナールの指導の中で養成し、今後の経営専門職学科での学修が効果的に進むようにする。	
	基礎ゼミナールⅡ	大学での学修に必要なアカデミックスキルである、聴く・読む・調べる・整理する・まとめる・表現する・伝える・考える力を少人数のゼミナールの指導の中で養成し、今後の経営専門職学科での学修が効果的に進むようにする。特に、論理的思考について深め、今後、実習が進み、 事業の学習を深く理解するために必要な素養として身につける。企業経営の基本について、事例をまとめて発表し議論する。後半は議論の際のルールを明示するなどして、他人の考えを丁寧に聴き、建設的な意見が述べることができるよう訓練した上で、発表会に向けたグループワークを実施する。論理的思考について理解した上で、企業経営の基本が何かを理解し、さらには書籍などから重要な要素を抽出し、他人に対してわかりやすく伝えること、他人の発表に対して建設的な意見を伝えられることを目指す。	
	基礎ゼミナールⅢ	職業専門科目の学習が本格的に開始され、 企業経営に関する学習や、デジタルデータ分析や、事業の実践に関する知識を確認する。 少人数での学習の特徴を生かして、それぞれの学修ポートフォリオを相互添削や教員からの指導を元に効果的に活用する。また、後半では、1年次秋学期に必修科目で学んだ「 共創・フューチャーセンター 」に関して、ゼミ単位で企画を作る。また、実際にゲストスピーカーを招き、企業の視点からレビューを行う。	

一般・基礎科目

授 業 科 目 の 概 要

(現代ビジネス学部経営専門職学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般・基礎科目	ゼミナール	基礎ゼミナールⅣ	本授業では、 企業経営に関する学習や、デジタルデータ分析や事業の実践に関する知識を深める 。企業のケーススタディやディスカッションを通じて講義の補助的な観点で理解を深める。少人数での学習の特徴を生かして、それぞれの学修ポートフォリオを相互添削や教員からの指導を元に効果的に活用する。3年次以降の専門ゼミの配属に備え、 事業の価値創造に関連したテーマ を学生がグループで主体的に調査分析してゼミ内で発表する。	
		経営学総論	経営学の研究対象は、企業、行政機関、NGO /NPO、病院、学校など多岐にわたる。その中でもとりわけ企業を対象として経営学が発展してきた。経営学の基礎的な理解を学び、さらに、経営専門職学科全体を通して学修を進める 企業経営や事業との関係性や、金融市場との関係性や、事業開発や事業調査の基礎となる知識など 、経営学に関する基礎的な理解を深める。	
職業専門科目	専門基礎教育科目	簿記	簿記の知識は、経営や経理に携わる人はもちろん、営業や販売に関わる人にとっても必要不可欠な知識である。つまり、「簿記」はビジネスに関わるすべての人たちに役立つ基礎知識である。これは、上場されている巨大企業であれ、街の小さな個人商店であれ、すべての会社は簿記によって日々の取引を記録している。本授業では、複式簿記の基礎的な原理を学ぶ。主として、商品売買業における取引を中心として、正確、明瞭に記録、計算、整理する能力を身につける。さらに簿記の基本となる資産、負債、純資産、収益、費用の基本概念を理解し、仕訳の仕方、仕訳帳および総勘定元帳の意義、その記帳法、各勘定科目の処理を学び、貸借対照表と損益計算書の作成までの流れを理解する。	
		統計学基礎	学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学が着目されている。経営分野において、マーケティング戦略の決定や投資行動などの意思決定を適切に行うために、データに基づいて客観的に決定するために必要な統計学の基本的な理論について学び、データの整理・要約や、確率分布の意味、推定・検定を理解することを目指す。以上より、統計学の目的、手法などの基礎知識を学び、それを応用することができる能力を身につける。統計学の基本的な考え方を理解し、データの整理・要約ができ、さらにデータの要約やグラフからデータの傾向についての考察や、統計モデルに対して、確率分布の意味を理解し、推定・検定について理解することを目指す。	
		マーケティング	商品・サービスを創り上げるためのマーケティングの基本(創造力の必要性、ターゲット、価格の設定、ネーミング、チャネル構築、プロモーション)を理解し、6つのケース・スタディに基づいてディスカッションを重ねることで、マーケティングとは何かを理解し、商品・サービスを生み出す創造力に磨きをかけることを授業の目標とする。そして、社会の現場で活かせる創造力豊かな実践的な能力を身につけることを到達目標とする。	
		会社法	私たちの身近な生活関係を通して、たとえば、AさんがBさんから金銭を借りた、さらにC社とD社で商品売買を行ったというように身の回りには様々な取引が生じている。個人間で行う取引や会社が行う取引もある。この時にどのような法律が関わってくるのだろうか。それは民法であったり、商法であったり、会社法である。本授業では、このように身近な生活の中で行われる様々な取引についてどの法律がどのように関わってくるかを学習する。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代ビジネス学部経営専門職学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
職業専門科目	専門基礎教育科目	経営管理論	管理(マネジメント)には、様々な定義があるが、アメリカ人のヒックスの書いたテキストでは「共通の目的を人々を通して達成していく過程である。」と定義される。当たり前のようなことだが、管理は多様な人間のもつ能力を共通の目標に向かってベクトルを合わせるため、集団主義的文化の強い我が国でこのような意味をもつ言葉はなかった。この講義では、管理についての基礎的な意味と、それが企業経営の中でどのように機能しているのか、経営専門職学科でベースとなる企業経営に関連した経営管理の知識を提供することを目的とする。	
		ファイナンス	企業経営を行うために必須となる事業計画・事業価値算定の基礎理論のファイナンスに関する知識を修得する。金融・証券市場の概観や基礎用語に加え、キャッシュフローの現在価値の考え方や債券・株式・金利の基礎的な分析手法を理解する。その上で、事業の価値創造に向け、事業計画や事業価値算定の基礎となる理論のファイナンスに関連した基本的な知識を習得し、キャッシュフローの現在価値の考え方や債権・株式・金利の基礎的分析手法を身につける。	
		地域経済論	地域経済論は経済学の一分野で、国内で行われている経済活動や経済動向を「地域」に焦点を絞って学ぶ分野である。地域には様々な経営主体やその連合体があり、全国規模の経済(国民経済)と関連を有しながら、日々有機的な構造変化を経験しており、国際経済とも密接な関連を有している。地域にあっても、企業の規模にかかわらず、グローバルイゼーション(国際化)との関連抜きには、その実態や意義を解明することはできない。物事を「国際的発想で考え、地域的に活動する」重要性を地域経済は教えてくれる。授業では、地域経済に求められる様々なファクターや可能性を学びながら、仕事探しの動機づけをおこなっていく。	
		ビジネスエコノミクス	ビジネスに直結する経済学の基本的な考え方を社会の出来事と関連させながら理解を深めることを目的とする。世界経済の流れや日本経済のあり方、市場経済と外部性(環境問題やCSR)、貿易問題と外国為替、金融政策、エージェンシー理論など、ビジネスパーソンとして必要不可欠な経済学の基礎知識を取り扱います。考察方法としての経済学を活用して、事業や取引の運営、組織の設計や管理、戦略的な意思決定をより効果的に実践する思考様式を涵養することを目指す。	
職業専門科目	デジタルデータ系	データベース	インターネット上の情報や企業情報がデータベースとして管理されている。大量のデータは関連性を整理してデータベースとして操作、管理するシステムにより利用できようになる。企業の業務システムにおいて、一般的に利用されているリレーショナルデータベース(RDB)の利用技法を習得し、リレーショナルデータベース(RDB)管理システムにおけるデータの蓄積と情報検索について、データベースソフトの利用技法とRDB標準言語SQLの記述技法を習得して、実務で活用できるようになることを目標とする	
		ビジネス情報処理実習	ビジネス活動に必要な情報収集と情報倫理、情報モラル、情報セキュリティ、情報の文書表現、数値情報の取り扱い方法に関する知識と技術を習得して、報告書や企画書を作成する実践力を学修する。表計算ソフトExcelを用いたデータ処理に関する演習と、プログラミングの入門的な演習を行い大量のデータの扱いに習熟するとともに統計的手法の理解の深化を図ることと、アプリケーションの作成から実行までの一連の手順を体験するとともに、プログラミングに関する基礎知識の習得を目標とする。後半は、具体的な業務課題を例題にして、報告書と企画書を作成するグループワークをおこない、他者にわかりやすく纏め上げるための技術や方法等に関するプレゼンテーション能力を育む。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代ビジネス学部経営専門職学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 専門教育科目 デジタルデータ系	統計処理とデータマイニングⅠ (定量)	統計処理とデータマイニングⅠにおいては、確率・統計、パターン認識・機械学習などを基盤であるデータの中から有用な知識を発見しようとするデータマイニングについて理解する。データマイニングの全体像を理解した上で、回帰分析、相関分析、主成分分析などの統計的な分析技術についての理解を深める。また、多変量データを分析するための方法として主成分分析、因子分析などの手法とそれらを利用した分析例についてSPSSを用いて理解する。	
	統計処理とデータマイニングⅡ (定性)	統計処理とデータマイニングⅡでは、主に定性データに関して取り扱う。具体的には、調査フィールドの設定やサンプリング理論、調査仮説を明確化するうえで重要な役割を果たす定性的データの獲得(インタビュー調査等)とRを用いてビッグデータを活用し爆発的な情報量の中から概念の検索や意味を理解するテキストマイニングの技法について学習する。後段階であるデータ解析の基本的技術と分析結果のフィードバックなどについて様々な事例を通じて理解する。	
	データベース実習	企業の業務システムにおいて利用者が求める機能を、要求定義書にまとめるために必要な知識と技術を習得する。また、要求定義書の作成で、具体的な業務の仕組みを分析して、システムの機能やデータベース、ネットワークに関する利用者の要求を抽出するために必要な、RDB(リレーショナルデータベース)の利用技法を習得する。最終的には事例を通じたグループワークにより、他者にわかりやすく纏め上げるための技術や方法等に関するプレゼンテーション能力を育む。	
	デジタルデータ活用	デジタルデータ活用では、企業経営におけるデジタルデータを活用することの意義・意味を理解し、中小企業などにおいて、人材が不足しデジタルデータの活用が困難である。これらの技術技能と実践的な企業の事例を通じて理解を深める。 (1 矢野昌彦) 先端的な取り組みにより、事業価値創造を成し遂げている企業の好事例を理解する (31 河村陽介) デジタルデータを活用したメディアとコミュニケーション論を学修し、世の中でどのようにデジタルデータが活用されているか実践的に理解する。	オムニバス 講義16時間 演習14時間
	データサイエンス実習	本授業では、ビッグデータ、IoT、オープンデータなどの膨大なデータの利活用としてデータサイエンスのいくつかの事例と、そこから作られる情報や価値を学ぶ。個々のデータの具体的な内容に加え、Pythonを用いた機械学習について習得する。最終的には事例を通じたグループワークにより、他者にわかりやすく纏め上げるための技術や方法等に関するプレゼンテーション能力を育む。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代ビジネス学部経営専門職学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
職業専門科目	専門教育科目	ビッグデータの活用	システムのクラウド化が進むに伴いあらゆるデータがクラウドに集められる「ビッグデータ」の活用が注目される。ビッグデータには、数値データだけでなく、テキストや映像、写真、音声といった、従来はデータ分析の対象になっていなかったものも含まれる。本講義では、ビッグデータの分析技術や実際の企業などでの適用事例を学ぶとともに、「ビッグデータ」の活用方法をベースに知識を抽出するデータ加工技術や数理最適化技術の理論についても概説する。それらの知識の活用方法に触れ、データが持つ無限の活用可能性を理解することを目的とする。	
		人工知能とIoT	本授業では、人工知能とIoTの最新技術を修得するのではなく、先端技術は何に活かせるのかを学ぶ。人工知能とIoTのビジネス戦略や活用を企画・実施する未来を担う学生に向けて、実践的な情報をわかりやすく伝えることを目標とし、将来自分のビジネス、企業のためにどう活用するかを探求し実践につなげるように講義する。人工知能とIoTに関する過剰な期待と様々な誤解を解き、人工知能とIoTの活用を実践する先進企業の最新事例を解説し、人工知能とIoT戦略、導入の失敗則について理解する。	
		統計調査実習	各都道府県・市町村が実施する「統計調査」について学修し、統計調査方法の理解を深めるとともに、統計調査データを活用して、社会課題を定量的な観点で特定する。そのための定量分析の手法を学んだ上で、テーマとする市町村の統計データを加工・分析し、課題の特定と解決策を提案し、事業立案に向けた調査ができる能力を身につける。	
		人工知能とIoT活用のイノベーション	デジタルデータ活用の各講義や、人工知能とIoTを踏まえて、人工知能とIoT活用に役立つツールやサービスの最新状態、そして人工知能とIoTのビジネス活用を取り巻く最新動向に対する理解を促すため、活用の具体的ケースをリサーチし、企業ケーススタディや、企業の活用事例を通して、プレゼンとグループディスカッションを行いながら授業を進める。今後の未来の活用事例について考察することを通して、事業の価値創造に向けた実践力を身につける。	
	事業実践系	事業概論	事業概論においては、事業計画を立案し、事業を実践するために必要なビジネスモデルや事業を構築するためのフレームワークなどについて学ぶ。後半では事業に関する企業事例をテーマとし、必要な実践的知識を理解する。到達目標としては、事業を展開するために必要なビジネスモデル・ビジネスプランの作成のためのエッセンスを理解する。後半は、事業の事例をテーマとし、事業の推進に必要な実践的知識を理解する。	講義 16時 演習 14時
	事業データ概論	企業外部には様々な利害関係者が存在するが、その中でも株主と債権者は企業の存続と成長に不可欠な資金を提供している。利害関係者の意思決定には、財務諸表を中心とする財務会計データも有用な情報の1つといえる。この授業では、財務会計データが作成される際の会計基準や財務諸表の読み方を学習し、利害関係者に財務情報が提供されるまでの一連の流れについての知識を習得する。さらに、公表されている財務会計データを読み解き、その企業の特徴を考察することや、同業他社との比較を通じ、財務会計データと事業の関連性を理解することを目的とする。		

授 業 科 目 の 概 要

(現代ビジネス学部経営専門職学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 専門教育科目 事業実践系	共創・フューチャーセンター	民間企業、行政、大学、NPO、住民が連携し、未来志向の対話を行い、イノベーションを創発させる場である「フューチャーセンター」について理解を深め、実際に「フューチャーセンター」(ワークショップ)を実現するために必要な手法を修得する。手法の理解に加えて、フューチャーセンターを活用することにより、外部の地域・社会との連携を推進の担い手を育成し、講義終了後には、自らフューチャーセンターを企画立案実行できることを目指す。	講義 16時 演習 14時 時間
	企業調査実習	事業の主体となる企業について、特に製造業・サービス業の企業に対して、実際に企業調査を実施することにより(企業見学を実施予定)、企業活動を調査、把握する。企業調査のために必要な事前準備として企業調査やインタビュー項目の設定、企業見学・インタビュー後には調査内容をまとめた上で、企業調査を実施し、それらを分析して全体で発表する。	
	事業計画と資金調達	事業計画と資金調達においては、専門基礎教育科目の「ファイナンス」で学んだことを基礎とし、企業経営における事業の実践で必要となる、事業計画や資金調達に関連した、実践的に求められる知識・技能を習得する。具体的には、外部からの資金調達方法の理解や、資金調達に関連して必要な資金計画表、資金繰り表、借入計画・返済計画などを含めた事業計画に関して理解するとともに、企業の事例の学修を通して理解を深める。	
	事業採算分析	事業の経営上、管理会計は重要な位置づけとなっている。事業の価値創造のために会計データからのアプローチはその意義が高く、効果も高く期待できる。管理会計は主として、会計情報を経営管理者の意思決定や組織内部の業績測定・業績評価に役立てることを目的としている。この授業では、事業推進・事業支援を行うための事業改善、さらに事業計画の策定を会計の観点から行うために、財務分析等により企業の現状を把握することや、損益分岐点の把握を行い、どのような経営戦略が必要かといったことを会計の観点から考察し、会計データを企業内部で活用するための能力を身に付けることとする。	
	プロジェクト実習	企業調査実習で企業の調査分析したことを踏まえ、実践的・参加型の学習機会を重視したPBL型(プロジェクトベースドラーニング型)の講義とする。具体的には、企業から事業課題を提供され、その課題に対して、グループワークを通して問題を構造化し、課題を特定し、課題の解決策を検討し、提案書にまとめてプレゼンテーションを実施する。最終的には企業からフィードバックを得ることにより、事業に関する理解を深める。	
	事業の調査と分析	事業の調査と分析においては、調査と分析のために必要な実践的な知識を学修する。具体的には、業界・マクロ環境分析、競合分析、顧客分析、自社の経営分析に関して、事業の推進に必要な実践的知識について理解をする。到達目標としては、事業の調査と分析を実施するために必要となる実践的な知識を理解し、実際に調査や分析実施できるようになる。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代ビジネス学部経営専門職学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 専門教育科目 事業実践系	事業共創	持続可能な事業創造を目指して、様々なステークホルダーと連携をして、起業プロセスやM&Aを通じたビジネスモデルの進化プロセスを学ぶ。変化する社会ニーズを把握し、理解し、事業戦略、ビジネスモデルの再構築、利害関係者とのコミュニケーションを通じて、事業価値の創造プロセスを理解する。また、ESG(環境・社会・ガバナンス)・CSV(creating Shared Value)、SDGs(Sustainable Development Goals)などの取り組みについても事業計画や未来計画としての戦略的組み込みについても事例研究を行う。	
	商品開発実践	事業の価値創造のために必要な商品企画や、販売、プロモーションに関して、マーケティングの学術的知識と、企業における実践の両面からアプローチする。これを実現するために、元岐阜県関市、中小企業の営業支援コンサルタント業務を担った元関ビスセンター長で、中小企業診断士を講師とすることで、企業での実践事例を豊富に扱いながら、事業の実践における商品開発について理解する。	
	事業計画実践	事業の価値創造のために必要な事業計画について、アイデアを具現化し、定量的な数字に落とし込み事業計画を策定すること、事業計画を策定することに加えて、実際に事業を開始するときの留意点や失敗事例について、ファイナンスの学術的知識と事業の実践の両面からアプローチする。これを実現するために、元島根県あおなん市の、中小企業の営業支援コンサルタント業務を担った、元あおなんビスセンター長で、公認会計士を講師とすることで、企業での実践事例を豊富に扱いながら、事業の実践における事業計画について理解する。	
	事業価値算定	事業の価値創造のためには、事業価値を正しく算定することや、投資判断のために定量的な観点での価値判断を実施する必要がある。本授業では、専門基礎科目の「ファイナンス」で学んだキャッシュフローの考えを基礎とし、投資プロジェクトに関する判断として、NPV法・IRR法に関する理解を深め、企業価値の算定について理解する。到達目標としては、事業の価値創造に向けた、投資判断・事業価値・企業価値の算定のために必要な事業価値算定の知識を企業の事例から修得する。	
	事業改善実習	事業改善実習は、3年次秋学期の「長期インターンシップI」「長期インターンシップII」「長期インターンシップIII」の受講後に配置する。今まで経験したデジタルデータ系と事業実践系の実践を通じた知識と技能と、企業経営に関する基礎知識を融合させ、定着させることを目的として、事業の改善に関連し、ケーススタディーや、ゲストスピーカーを招き、企業の視点からレビューを行い、企業における事業改善の実態を把握するとともに、ゲストスピーカーによる課題提供を通じたPBL形式の学修を通じて理解を深める。	
	社会共創実習	社会共創実習は、3年次秋学期の「長期インターンシップI」「長期インターンシップII」「長期インターンシップIII」の受講後に配置する。企業経営に関する基礎知識と、展開科目で学んだ地域創生や社会課題に関する知識と、事業共創に関する知識を融合させ、これからの社会における価値創造のあり方について、企業などの事例や、ゲストスピーカーによる課題提供を通じたPBL形式の学修を通じて理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代ビジネス学部経営専門職学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
職業専門科目	事業実践系 専門教育科目	ソーシャルイノベーション	名古屋産業大学尾張旭キャンパス内に開設された株式会社名古屋産業大学グリーン・ソーシャルビジネス(名産大GSB)は、省CO2化をテーマとしたソーシャルビジネスを展開している。具体的には、①LED照明導入の企業向け提案、②省エネ設備導入に伴うCO2削減量のクレジット化と販売、③店舗空間のCO2モニタリングと省エネに向けた改善などの事業活動を実践している。このため、名産大GSBの事業活動と連携し、企業の事業活動の視点からソーシャルイノベーションのための理論と実践の双方を融合する形で学修し、事業の価値創造に向けた実践力を身につける。	
		サービスイノベーション	着地型観光の事業を担い学内の存在する株式会社KEIETANと連携し、サービスを顧客に提供する際のマネジメントに関して、理論と実践の双方を融合させた形で学修する。形財(モノ)のマネジメントとの違いに注目しながらサービスをいかに顧客に提供し、サービスの生産性向上に至るまでの「サービスマネジメント」の基礎的なサービスを概観し、実際に企画、販売、実践を通して、事業の価値創造に向けた実践力を身につける。	講義 16時 演習 14時間
		専門ゼミナールⅠ	専門ゼミナールⅠでは、3か月間の臨地実務実習の実施の支援し、事業の価値創造に向けて、企業経営の基礎とデジタルデータ分析や、事業の実践に関する知識の定着をサポートする。実際の実務で活用する技能技術に関する水準と現状の知識・技能技術の違いを認識した上で、残りの学生生活における学習計画を立案する。	
		専門ゼミナールⅡ	3か月の臨地実務実習を終えたことを振り返り、改めて技能・技術がどの程度身についているかを把握する。その上で、各教員の専門性を考慮したゼミナールが配置されるが、前半では経営専門職学科で学習する、事業の価値創造に向けて、企業経営の基礎とデジタルデータ分析や、事業の実践に関する理解度を確認する。後半では、卒業研究に向けて、企業や業界に着目し、企業の事例を調査し、データも併せて収集し、その分析を行い、今後の研究の方向性を定めることとする。到達目標としては、今前学修した経験や、実習などを中心に身に付けた技能技術を総合的に活用し、4年次に本格的に卒業研究に取り組むための、業界・企業をテーマにした事例を調査し、データ収集と、分析ができるようになる。	
	専門ゼミナールⅢ	卒業研究に向け、今まで学修した知識や、実習を中心に身に付けた技能技術を活用する。事業の価値創造に向けて、企業経営の基礎とデジタルデータ分析や、事業の実践に関するデータを収集し、加工・分析することにより、調査を実施する。専門ゼミナールⅡで実施したテーマに対する調査データの収集、先行研究などを調査に加え、対象とする「事例」の課題を特定し、リサーチ方法と事例学習・研究へ向けた調査方法とその調査に対する具体的な計画を構築する。		
	専門ゼミナールⅣ	卒業研究に向け、今まで学修した知識や、実習を中心に身に付けた技能技術を活用する。具体的には、事業の価値創造に向けて、企業経営の基礎とデジタルデータ分析や、事業の実践に関する外部のデータや、インタビューやアンケートなどのデータを収集し、加工・分析することにより、専門ゼミナールⅢで実施した調査結果・分析結果を踏まえて、卒業論文としてふさわしい内容の事例論文を完成させる。また、卒業研究に向けた学修プロセスが、事業の価値創造に向けた技能の修得に寄与することを目指す。		

授 業 科 目 の 概 要

(現代ビジネス学部経営専門職学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
職業専門科目	臨地実務実習	インターンシップ	2年次の春学期までに学んだ、企業経営に関する知識とデジタルデータの活用と事業の実践の知識・技能に関連して、高度な職業実践力を養成するために、企業における実践経験により、実際の企業における知識・技能の活用方法について実践を通じて理解し、修得する。夏の期間に8日間、「愛知中小企業家同友会」と連携したインターンシップ、もしくは「飛騨高山の企業」に対するインターンシップ等に参加する。講義は事前学習として、インターンシップに関する目標設定を行い、実習中は、毎日の日報の提出や、企業と教員からの評価・サポートが受けられる体制を構築する。終了後は実習での経験を知識・技能として身につけ、自らの課題と今後の目標設定へ向けた振り返りレポートと、発表プレゼンテーションを行う。	
		長期インターンシップⅠ	企業経営に関する知識とデジタルデータの活用と事業の実践の知識・技能に関連して、高度な職業実践力を養成するために、企業における実践経験により、実際の企業における知識・技能の活用方法について実践を通じて理解し、修得する。事前に企業と大学の間で教育プログラムが設計され、その内容に基づいて実習を行う。実習期間中は毎日日報を提出するとともに、週に一回は大学に戻り、「専門ゼミナールⅠ」で進捗や成長度合い・達成度などを確認する。「長期インターンシップⅠ」の到達目標は、「事業の体験と実態把握」とする。	
		長期インターンシップⅡ	「長期インターンシップⅡ」は、「長期インターンシップⅠ」と原則として同じ企業に対して、グループで継続実施する。長期インターンシップⅠの最終プレゼンで実施した「企業の課題」の提案を踏まえて、「長期インターンシップⅡ」では、今までに学んだデジタルデータ分析の統計活用や、データの取得方法、事業調査などの知識・技能を生かして、社内データや、顧客データや市場データを集めて、課題の本質的課題を定量的なアプローチを中心に分析した上で、解決策を複数提案する。長期インターンシップの到達目標は、「事業調査によるデータ分析と課題解決策の提案」とする。	
		長期インターンシップⅢ	3年次の春学期に約3ヶ月間の長期インターンシップを実施する。「長期インターンシップⅢ」は、「長期インターンシップⅠ・Ⅱ」と原則として同じ企業に対して、グループで継続実施する。長期インターンシップⅡの最終プレゼンで実施した課題の解決策に対する提案を踏まえ、企業と協議の上、企業内で実践し、事業の価値創造に寄与することを旨とする。また、提案の結果、新たな課題が発見された場合や、再調査が重要と判断する場合は、再調査により、企業の真の課題と新たな解決策を示すことで、事業の価値創造に貢献する。長期インターンシップⅢの到達目標は、「事業の価値創造に向けた課題解決策の実践」とする。	
展開科目	地域文化とまちづくり	地域文化とまちづくりにおいては、まずはまちづくりの活動を具体的にイメージできる事例を通じて地域活性化の理論と実践の理解を促す。それを踏まえ、地域におけるビジネス手法であるコミュニティビジネスの実践的知識を学修する。具体的には、地域文化に寄与するまちづくりを実施するために必要となる地域マネジメントに着眼し、地域型商店街や道の駅の現状と課題を踏まえたマネジメント手法について、実践的な事例を交えながら理解を促す。また、この理解のイメージを深めるために外部講師を招いて話を聞くことで、地域文化とまちづくりの実態を把握し、理解を深める。	講義 16時間 演習 14時間	
	ダイバーシティと女性活躍推進	人生100年時代と言われるようになり、一つの会社、一つのスキルだけで一生が終わることのほうが珍しい時代になってきた。社会や企業に属するなかで、多様な価値観や多様な働き方が存在して来ている状況である。「様々なダイバーシティ」の考え方、男女のパートナーシップの新しいあり方、産休・育休取得制度の促進と、働きやすい環境の整備や能力開発について、先進的企業の取り組みを踏まえた上で、企業において求められる人材開発について理解する。		

授 業 科 目 の 概 要

(現代ビジネス学部経営専門職学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展 開 科 目	観光地域開発	<p>少子高齢化社会の中で、地域創生に関連し、近年のわが国の重要な成長戦略の柱のひとつとなった「観光」について、観光資源、観光産業、観光政策の観点から学びます。その上でわが国の観光政策に対する基本的な知識と、地方創生の中で観光産業、観光施策、観光の効果について理解することを目指す。</p> <p>観光の仕組みと近年の日本の観光の実態をデータより理解し、さらに観光に関連した産業に関して学び、観光が地域活性化や地域創生にもたらす知識を身につける。</p>	
	モラルと共感の心理学	<p>地域における様々な課題の解決のために人びとが連携をするためには、多様なアクター間の協力的行動が欠かせない。近年、心理学領域では、進化論的観点から、協力的行動の基盤となる道徳性と感情の機能についての検討が盛んに行われている。これらの研究知見を基に、本講義では、地域における企業、市民、行政など多様なアクター間の協力と連携を促進・阻害する心理的メカニズムに関する考察を行う。具体的には、道徳心理学に関する古典的理論を概説した後、近年の道徳研究の展開の契機となったハイトによる道徳基盤理論とグレイらのDyadic Morality理論を紹介し、直観的な道徳判断や対人的な相互作用に基づく道徳的役割の付与について詳説する。また共感的配慮が協力的行動を促進する可能性を取り上げ、その機序と限界について解説を行う。最終的に、以上の心理的知見を踏まえ、どのような連携・協力が可能となるか、議論を深める。</p>	
	地域スポーツコミッション	<p>平成27年度よりスポーツ庁が中心となりスポーツと景観・環境・文化などの地域資源を掛け合わせ、戦略的に活用することで、まちづくりや地域活性化につなげる取組が全国で進められている。この講義では、スポーツへの参加や観戦を目的とした旅行や、スポーツと観光を組み合わせた取組である「スポーツツーリズム」、域外から参加者を呼び込む「地域スポーツ大会・イベントの開催」、国内外の大規模な「スポーツ大会の誘致」、プロチームや大学などの「スポーツ合宿・キャンプの誘致」などの事例に触れ、これらの取り組みを推進する、地方公共団体やスポーツ団体、観光業界団体などの役割について理解する。</p>	
	地域連携論	<p>地域には様々なアクターが存在し、その異なるアクターの連携による取り組みが各種行われている。様々なアクター間の地域連携の事例より「地域連携」のあり方、コーディネーターの役割を理解することを目指す。</p> <p>(8 今永典秀) 地域創生のための地域デザインモデルや、地域において様々なアクターが連携するためのコーディネーターの役割の重要性や、事業の価値創造のために、社会変化や企業変化に対応し、組織内外との連携するための協働する力を養成する。</p> <p>(37 南田修司) 東海地域を中心に、様々なアクターとの協働・連携を実現するNPO法人G-netが連携した地域連携の様々な事例をもとに、地域連携の担い手となるために必要な知識・能力について理解する。</p>	オムニバス
	地域公共政策	<p>人口減少や少子高齢化の進行による経済・社会構造の変化という課題を克服し、自立的で持続的な社会を実現するための「地域創生」への取り組みが拡大している。このような状況下において、近年取り組まれている地域創生に関連する公共政策や制度を理解し、さらには大学や自治体、企業等の様々なステークスホルダーにとって、この政策がどのような効果があるかを理解する。さらには、地域創生を実現するために、様々な計画や企画が実現されているが、その具体的な事例をもとに、地域における課題と取り組むべき政策について考えられるようになることを目標とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(現代ビジネス学部経営専門職学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展 開 科 目	ワークライフバランスとワークーション	デジタルデータ活用が進むことで、働き方や生き方が変化することが予測される。企業においても、組織においても遠隔でのコミュニケーションが中心となり、プロジェクト単位で、組織を超えた働き方が展開される可能性がある。このような中で、事業を実践し、個人の健康、働き方をトータルに考え実践する、新たな時代の働き方、過ごし方、コミュニケーションのあり方について理解する。	
	コミュニティ心理学	地域企業のイノベーションに創造的な役割を担うためには、地域社会における人的・組織的な連携関係や地域と関わる課題などを客観的に理解し、論理的に考える能力が必要となる。そのため本講義では、コミュニティ心理学の分野で得られてきた研究知見と、社会心理学におけるコミュニティ研究分野の中で得られてきた知見の両方を概説し、加えて課題解決に向けた実践的な研究や取り組みアプローチについても紹介をすることで、様々な人が活動する地域に関連した多様な問題やトピックとその解決に関する議論を深めることを目標とする。	
	共生社会福祉	性別や性の多様性、文化、民族、障害の有無といった様々な違い、それに起因するマジョリティ(多数派)とマイノリティ(少数派)の関係は、アイデンティティ(私らしさ)や異なる人々の排除の問題と結びつきやすい。多様な人々が職場や地域社会で共に活動する「共生社会」を実現するうえで、こうした違いを互いに理解し、配慮しあうことが求められる。この講義では、これらの違いがもたらす課題について社会的視点ならびに多文化的な視点から理解を深める。さらに、違いを乗り越え、お互いに理解し、配慮しあうための具体的な方法を実践できるようになる。	
	ヘルスケアマネジメント	地域社会や企業などの集団においては、ケアを必要とする人々(個人・集団・地域)が数多く存在する。その人たちのニーズに沿う支援をするためには、個人、家族、企業等の単独ですべてを解決することは困難な状況になっており、様々な機関の連携が必要であり、実践されている。本講義では、保健・医療・福祉職間の連携・協働の必要性、ヘルスケアマネジメントの具体的な展開方法と、その実践のための自己の専門領域の特性と他の専門領域との共通性について理解する。	
	環境生態学	生物の多様性は「豊かな生物的自然」を意味し、人類の生存・文化の根源として、また環境の指標としてその保全・再生が地球規模の課題とされている。また、過去の地球の気候変動について理解することで、現在私たちが直面している地球温暖化の問題点について正しい知識を身につける。近年には、地球温暖化問題に見られるように人間活動が気候を変化させている。地球の長い歴史の中で気候がどのような変動をたどってきたのかその要因も含めて学ぶとともに、気候変動が人間社会に与える影響について理解する。	
	人材育成と組織開発	昨今の社会課題として、特に中小企業においては、人材の採用が課題となっている。その上で、新卒社員が入社後に企業に定着することや、定着するにとどまらず活躍するための様々な人材研修や、福利厚生などの対応が必要である。また、新しい時代においては、自社の社員のみならず外部との連携も重要になっており、これらに関して、事業を実施する企業の視点に加え、社会の変化の観点から社会的な視点で考察し、理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代ビジネス学部経営専門職学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	事業価値創造実習Ⅰ	<p>これまで身につけてきた知識・技能・経験に関して、実践プロジェクトを通して、事業の価値創造に向け、企業経営に関する基礎知識と、デジタルデータ系と事業実践系の知識・技能・能力を定着させる。事業価値創造実習Ⅰでは、事業の価値創造に向けて、事業調査・分析に重点を置き、事業調査・データ分析を中心とし、事業計画案を具体化することに重点を置く。特に、社会課題、顧客のニーズ、課題を意識し、その解決策のためにビジネスが成り立つことを想定し、具現化することを目指す。</p> <p>「一般・基礎科目」「職業専門科目」「展開科目」の履修を踏まえ、企業と連携した実践プロジェクト学習に、グループで1年間取り組む。企業と連携した実践プロジェクトを通じて、事業の価値創造に向け、企業経営に関する基礎知識と、デジタルデータ系と事業実践系の知識・技能・能力を定着させることを目標とする。</p>	
	事業価値創造実習Ⅱ	<p>「事業価値創造実習Ⅱ」では、「事業価値創造実習Ⅰ」に継続し、事業の価値創造のための事業企画・事業計画素案をベースにし、市場や顧客の調査を継続し、事業計画を具体的に構築する。顧客需要を捉え、事業計画の改善を図る。この際には、実際の実現可能性を意識したKPIの設定や事業計画の立案により、具体的な資金計画も含めて、事業を実践することを目指す。</p>	